

Hara Museum of Contemporary Art

「ソフィ カル—限局性激痛」 原美術館コレクションより

2019年1月5日[土]—3月28日[木] 原美術館



《図版 1》



《図版 2》

【展覧会概要】

世界的に注目されるフランスの女性現代美術作家、ソフィ カル。19年前に原美術館で開催し、大きな反響を呼んだソフィ カルの個展「限局性激痛」（1999-2000年）を、フルスケールでご覧いただく展覧会を開催いたします。同展は日本の美術館におけるカル初の個展として開催され、会期終了後、全出品作品が当館のコレクションに加えられました。「限局性激痛」とは、医学用語で身体部位を襲う限局性（狭い範囲）の鋭い痛みや苦しみを意味し、カル自身の失恋体験による痛みとその治癒を、写真と文章で作品化したものです。人生最悪の日までの出来事を最愛の人への手紙や写真で綴った第一部と、その不幸話を他人に語り、代わりに相手の最も辛い経験を聞くことで、自身の心の傷を少しずつ癒していく様子を、美しい写真と刺繍で綴った第二部で構成されます。自身の人生をさらけ出し、他人の人生に向き合うカル制作に多くの鑑賞者が心を打たれることでしょう。鑑賞者にさまざまな問いを投げかけるカルの作品を、この機会に是非ご覧ください。

【ソフィ カル とは】



Photo: Jean-Baptiste Mondino

1953年パリ生まれ。見知らぬ人々を自宅へ招き、自分のベッドで眠る様子を撮影したものにインタビューを加えた「眠る人々」（1979年）や、ヴェネツィアのホテルでメイドをしながら、宿泊客の部屋の様子を撮影した「ホテル」（1981年）、拾ったアドレス帳に載っていた人物にその持ち主についてのインタビューを行い、日刊紙リベラシオンに連載した「アドレス帳」（1983年）など、彼女の作品は常に論争を巻き起こしています。90年代の「本当の話」や「ヴェネツィア組曲」など初期の代表作を制作する一方で、「盲目の人々」（1986年）から始まった盲人に焦点を当てたシリーズにおいて、美術の根幹に関わる視覚・認識についての深い考察を行っています。また、カルの生き方に感銘を受けたポール オースターが、彼女を小説「リヴァイアサン」の登場人物マリア ターナーのモデルとしたことをきっかけに、逆にカルがターナーを演じた作品「ダブル・ゲーム」（1998年）を発表するなど、その活動は現代美術の枠組みを超えて広く注目を集めています。テートギャラリー（1998年）やポンピドゥーセンター（2003-2004年）での個展の他、各国の主要美術館にて個展を多数

Hara Museum of Contemporary Art

開催、第52回ヴェネチアビエンナーレ（2007年）にフランス代表として参加。2017年にはフランスにおける個展を、パリ狩猟自然博物館という異色の会場で開催し、話題になりました。原美術館では、「限局性激痛」（1999-2000）に加え、カルが長年にわたって追究してきた視覚や認識に関するテーマを扱った「最後のとき／最初のとき」（2013）の2回の個展を開催しました。「最後のとき／最初のとき」は豊田市美術館（2015年）、長崎県立美術館（2016年）へ巡回。

【アーティスト・トーク（作家来日予定）】

アーティスト・トーク 2019年2月1日（金）原美術館 ザ・ホール

※詳細は決まり次第、原美術館ウェブサイトに掲載。

【ソフィ カル個展を都内2箇所で開催（作家来日予定）】

ソフィ カル《Parce Que》（なぜなら）

2019年2月2日[土] - 3月5日[火] ギャラリー小柳

ソフィ カル《Ma mère, mon chat, mon père, dans cet ordre.》（私の母、私の猫、私の父、この順に。）

2019年2月2日[土] - 3月11日[月] ペロタン東京

【「限局性激痛」制作にまつわるエピソード】

（1）原美術館で世界初公開

日本滞在が契機となって誕生した作品「限局性激痛」は、日本で最初に発表したいという作家の希望を受けて1999年の原美術館での展覧会のためにまず日本語版が制作され、その後フランス語や英語版も世界各国で発表されました。

（2）フランス語版

フランス語版“Douleur Exquise”はポンピドゥー国立近代美術館での大個展（2003-2004年）に出品された後、同館コレクションに加わりました。

（3）テキスト刺繍は新潟で制作



「限局性激痛」第二部で特徴的なのは、テキストが全て刺繍でつづられている点。「見本と寸分違わず刺繍できる凄腕の職人がフランスにいる」という作家の情報を受けて、当初、日本語のテキストをフランスで手刺繍してもらう予定でした。しかしなにしる膨大な量です。新潟にある刺繍工場の方と偶然にも幸福な出会いがあり、大変な協力を得て、まずは日本語版の機械刺繍が完成しました。生地は作家こだわりの麻布をベルギーから取り寄せました。作家も出来栄に大いに満足した結果、フランス語版と英語版も新潟で制作されました。

《図版3》

（4）こだわりの翻訳

ソフィ カル作品の命ともいえるテキスト。コピーライターの竹内桃子氏にお願いして、原文にあるニュアンスを取り込みながら日本語版テキストを完成しました。

（5）第一部で被写体となった品々

15年間封印されていた思い出の品々行動を記録した手書きのメモ、地図、ポラロイドやコンタクトプリント、（中国の）紙幣、そしてあってはいけない某ホテルの鍵などは、全て、ひとまとめにしまわれていました。

Hara Museum of Contemporary Art

作品制作を決めた作家は、これを開封し、メモや記憶をたよりに必要に応じてその地を再訪するなどして、数年をかけてこのシリーズ作品が完成しました。

(6) 哲学者やアーティストも作品に参加

第二部で、自らの最もつらい体験をカルの失恋体験と交換した相手の中には、哲学者やアーティストも。当館にて 2012 年に個展を開催したフランスの現代美術作家、ジャン＝ミシェル オトニエルも実はその一人です。

【広報用図版】

ご希望の図版の番号かポートレイトをご指定の上、お申し付けください (p. 1-3)。作品図版につきましては別途お問い合わせください。掲載時のトリミングや文字載せはご遠慮ください。また下記のクレジットを必ずご記載くださいますようお願い申し上げます。

《図版 1》《図版 2》のクレジット

「ソフィ カル—限局性激痛」原美術館コレクションより 展示風景

©Sophie Calle / ADAGP Paris and JASPAR Tokyo, 2018

Photo by Keizo Kioku

《図版 3》のクレジット

「ソフィ カル—限局性激痛」1999-2000年 原美術館での展示風景

©Sophie Calle / ADAGP Paris and JASPAR Tokyo, 2018

ポートレイト クレジット

ソフィ カル 近影

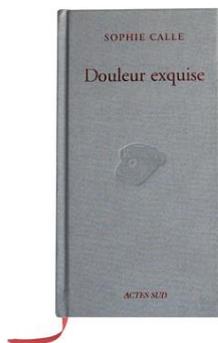
Photo : Jean-Baptiste Mondino

【開催要項】

- 展覧会名 「ソフィ カル—限局性激痛」 原美術館コレクションより
(欧文表記 *Sophie Calle, "Exquisite Pain" from the Hara Museum Collection*)
- 会期 2019年1月5日[土] - 3月28日[木] 開館日数 71日
- 主催・会場 原美術館 [東京・品川]
東京都品川区北品川 4-7-25 〒140-0001 Tel 03-3445-0651
E-mail info@haramuseum.or.jp
ウェブサイト <https://www.haramuseum.or.jp>
- 休館日 月曜日 (1月14日、2月11日は開館)、1月15日、2月12日
- 開館時間 11:00 am - 5:00 pm (水曜は 8:00 pm まで / 入館は閉館時刻の 30 分前まで)
- 入館料 一般 1,100 円、大高生 700 円、小中生 500 円 / 原美術館メンバーは無料、学期中の土曜日は小中高生の入館無料 / 20 名以上の団体は 1 人 100 円引
- 交通案内 JR「品川駅」高輪口より徒歩 15 分 / タクシー 5 分 / 都営バス「反 96」系統「御殿山」停留所下車、徒歩 3 分 / 京急線「北品川駅」より徒歩 8 分
- * 日曜・祝日には当館学芸員によるギャラリーガイドを実施 (2:30 pm より 30 分程度)

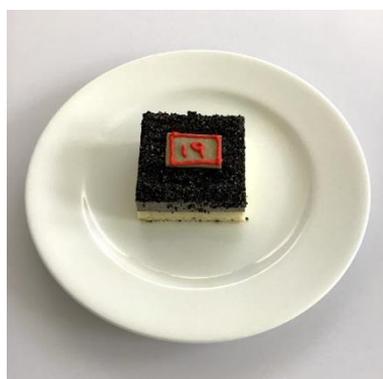
Hara Museum of Contemporary Art

【ザ・ミュージアムショップにて フランス語版 “Douleur Exquise” 書籍販売】



フランス語、ハードカバー、カラー281 ページ。4,800 円（税込）
*原美術館では特別に、展覧会時のテキスト和訳冊子をお付けしております。
（一部和訳がない部分もございますが、ご了承ください。）

【カフェ ダール 展覧会関連「イメージケーキ」のご案内】



原美術館館内の「カフェ ダール」では、緑ゆたかな庭に展示された作品を眺めながら、季節感あふれるお菓子やお食事、ドリンクをお楽しみいただけます。美術館のカフェならではのメニューとして人気が高いのが、開催中の展覧会にあわせた「イメージケーキ」（755 円）。本展では、カルが日本で撮影した枯山水の写真をイメージ。黒ゴマをたっぷりと使用し、和のテイストも感じられる、風味豊かな黒ゴマのムースをご用意いたしました。展覧会と合わせ、イメージケーキもぜひお楽しみください。（2019 年 2 月末までのご提供です。）

*カフェのみのご利用にも入館料が必要です。

取材・図版提供などのお問い合わせ先：原美術館広報 野田、市川 担当学芸員 内田
Tel: 03-3280-0679 Fax: 03-5791-7630 E-mail: hmpr@haramuseum.or.jp
（いずれも広報直通／掲載時には代表番号・アドレスをお用ください） Twitter: @haramuseum instagram: @hara_museum